

北九州市立藍島保育所 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 10 月 12 日（金） 10：00～11：00
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎 2 階 21 会議室
- 3 出席者 （検討会構成員）阿南構成員（座長）、白井構成員、中西構成員、
春高構成員、宮川構成員
（事務局）子ども家庭局保育課事業調整担当課長、
保育指導担当課長、事業調整担当係長、担当職員

4 会議内容

- 事務局より、当日の配布資料・議事次第等について説明
- 事務局より、検討会の位置づけ及び選定基準、審査にあたっての留意事項について説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体（一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会）による提案概要についてのプレゼンテーション
- 応募団体（一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会）への構成員によるヒアリング

（構成員）通常、保育料については、その世帯の市民税等によって決定するが、藍島保育所の場合は収入に関係なく 4,000 円なのか。

（応募団体）その通り。応募要項に記載されていた収入に関係なく、へき地保育所として、使用料月 4,000 円となっている。

（構成員）離島の特性を活かした独自性のある保育を提供すると提案されていたが、具体的にどのような独自性を展開されるのか教えてほしい。

（応募団体）現在、藍島の住民の人数は 300 人を切っており、その数も段々少なくなってきた。少ない人数だからこそ、保育所や小学校の様々な行事を島民皆で見守っている状況である。町中の保育所と違って、子ども達と保育所の関係に全島民が目を向けてくれているため、島全体の子ども達であり、保育所であるという雰囲気保育所運営を行っている。子ども達が少ない分、誰が熱を出したとか、今何があっているとか、島民皆が知っていて、全員我が子という感じで、とても良い雰囲気保育できている。

（構成員）地域と連携した保育が展開されているということか。

（応募団体）その通り。あのような保育は町では見られない。

（構成員）財政基盤について、平成 30 年度予算、正味財産増減計算書を見ると、前年度決算と比較しやや乖離があるが、理由を教えてほしい。

（応募団体）平成 30 年度予算書は 1 月に出すため、平成 29 年度の決算が済んでない。よって、最終的な収支、財産が決まっていない。平成 29 年度の決算は、平成 30 年 5 月くらいに出るため、予算の暫定残高を予算額として記載をしている。

（構成員）予算の暫定残高と決算で、この程度の差は出てしまうのか。

（応募団体）毎年同様に処理している。平成 30 年度予算に関しては、先日、母子会

の九州大会が北九州市で行われたが、その当番期となっており、費用を平成 30 年に計上しているため、正味財産期末残高が減少した。

(構 成 員) 平成 30 年度の大会経費は、平成 31 年度以降も継続的に出るのか。

(応募団体) 出ない。平成 30 年度は大きな大会があったためで、特別である。

(構 成 員) 人的基盤について、今、藍島で保育士をされている先生が、来年度以降、長期休暇を取る場合や、病気によって辞めざるを得ない状況となった場合に、代替りの保育士の確保は可能なのか。

(応募団体) そうなった場合の保育士の確保は時間を要すると思う。女性保育士であれば、島でずっと宿泊するというのも敬遠される要因となる。また、通う場合でも船の時間の問題がある。今年度から従事している保育士も、3、4ヶ月くらいかけて、あらゆる関係者をお願いして探した。今後も、関係者に協力を仰ぎながら保育士の確保に努めたい。

(構 成 員) 保育の質の向上について、研修には行かれていると思うが、他に何か自主的に向上させるために、実行していることはあるか。

(応募団体) 研修参加の案内があった場合には、その内容により保育士や理事長と相談しながら、受講の可否を決めている。人権研修などは、これまでの所長経験をもとに、保育士に話しをすることもある。

(構 成 員) 衛生面については、嘱託医の先生が来て、消毒の仕方等の研修を受けているのか。

(応募団体) 衛生面に対する意識は、本土よりもはるかに優れている。小学校で風邪や感染症が流行りだすと、保護者同士の連携で、保育所にも状況がすぐに伝わる。嘱託医の先生にも、すぐに電話連絡をしたり、手洗いやうがいなどを徹底するなど、行動は非常に早い。

(構 成 員) 第三者評価や自己評価など、また利用者の方の声を聞いたりすることがあるか。

(応募団体) 自己評価に関しては、できるだけ職員同士で声をかけ合い、また、職員会議などでも意見交換をしたりして、自分では気が付かない原因を見つけやすいような環境を作っている。また、保護者の方達も、わりと遠慮しないで何でも話してもらえるので、そういった意味でとても良い雰囲気である。

(構 成 員) 自己評価表はあるか。

(応募団体) そのような記録があることは存じているが、評価表は作成していない。

(構 成 員) 安全管理マニュアルや調理に関するマニュアルが改正されている箇所もあるため、調理従事者も研修等を受けてもらい安全な給食を提供してもらいたい。

○ 構成員は、提案概要のプレゼンテーションと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

『指定管理者としての適性』についての意見

(構 成 員) 子ども達の最善の利益を守る前提のもと事業が展開されている。

人的基盤については、人材の確保に苦慮しつつも、周囲の協力を得て対応ができています。今まで8年間の指定管理実績も評価した。

(構 成 員) 保育所保育指針を踏まえた内容で保育運営が実施されていることは、評価できる。人的基盤や確保への対応は十分にあると感じる。また、家庭的保育事業で3歳未満児保育や認可外保育施設「ころころ」の運

営などの経験がある。

- (構成員) 新保育所保育指針等の理解を踏まえた方針がとられている。また、母子支援事業等の実績が豊富であり、保育に関わる類似事業実績がある。8年間の指定管理実績と他保育事業にも携わっている。

『管理運営計画の適確性に関する有効性』についての意見

- (構成員) 藍島という離島の特性を活かした保育運営ができている。住民の人数が少ないからこそ、利用者世帯のみではなく、島民全員で児童の見守りが行われている。
- (構成員) 地域の子育て支援に対する取組みや食育についての計画に、更に力を入れてほしい。また、苦情対応の仕組みが簡素だと感じるが、家庭との連携を大切に相談しやすい雰囲気を作っていたり、保育参観を通して親子で調理やゲームを実施するなどの点は評価できる。
- (構成員) 藍島地区の地域住民との連携が適切になされている。保育指針に沿った各年齢の保育指導計画がある。児童数は少ないものの、年間行事数が豊富であり、交流保育等で多人数の子どもとふれあう機会も多い点が評価できる。
- 苦情に関しては、要綱を作成するなど適切に対応している。へき地であっても、高い満足度を目標に掲げている点が評価できる。

『管理運営計画の適確性に関する効率性』についての意見

- (構成員) 施設においては、保育士で修繕可能な箇所は自前で行い、子どもの保育については、質の低下のないように工夫し、出費も抑えている。
- (構成員) 随所で経費を抑える工夫がなされている。

『管理運営計画の適確性に関する適正性』についての意見

- (構成員) 最新の識見を得るために、外部研修の有用性に対する理解を求めたい。安全管理マニュアルも改正が必要である。
- (構成員) 地域の行事に積極的に関わり、合同で実施するなど交流を深めている。
- (構成員) 職員の資質向上のために、人権研修の他にも色々な研修が必要であり、また自己評価や保護者、地域の方々からの苦情に対する対応も改善することが質の向上に繋がると感じる。
- (構成員) へき地保育所では、人材確保が最大の課題であるが、経験豊富な人材の配置に努めている。安全面に配慮し、複数の人が日常の保育に関わるなどの工夫が見られる点が評価できる。また個人情報については、規定を設け、対策がとられている。

- 構成員は審査項目ごとの議論を踏まえ、各自評価レベルを再考し記入
- 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、
 - 1 指定管理者としての適性のうち
 - (1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針については 4、
 - (2) 安定的な人材基盤や財政基盤については 3、

- (3) 実績や経験などについては 4、
 - 2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち
 - (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについては 3、
 - (2) 利用者の満足度については 4、
効率性のうち、
 - (3) 指定管理料及び収入については 4、
 - (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性については 4、
適正性のうち、
 - (5) 管理運営体制などについては 4、
 - (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについては 4
- が妥当であると決定した。

○ 事務局が合計得点を発表し、検討会としての検討結果(総合的な所見)について、次の発言があった。

(構成員) 離島の独自性を活かした保育運営が実施されており、これまでの8年間の指定管理の実績もあることから、今後も適切な管理運営が期待できる。しかしながら、外部研修会の有効利用が乏しいため、専門職としての年齢層にあった研修参加に進んで参加すべき。また、取り入れている安全管理マニュアルは改正されているため、最新の安全管理体制を築けるよう取り組んでほしい。

(構成員) へき地保育所ということで、様々な制約があると思うが、保育運営するにあたっては、やはり研修が大事。何らかの形で積極的に研修参加してもらいたい。あとは、安全管理マニュアルを更新し、子ども達の安全確保に努めていただきたい。

(構成員) 8年間の指定管理の実績があり、離島という地域性に配慮した保育が展開されている。しかし、危機管理体制等については、最新の情報を取り入れていく必要がある。また、自己評価を行うなど、保育内容を見直したり、所内研修の内容も充実させていただきたい。

(構成員) へき地という困難性があるなか、様々な工夫がなされている。今後は、職員の保育の質の向上のため、研修代替等の措置に工夫が必要であるとする。

(構成員) 離島の保育所ということで、かなり厳しい条件の下で運営をされている。全体的に、当該団体に指定管理を任せることについては何も問題はない。

○ 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果を取りまとめた。

検討会としては、合計得点や提案内容を総合的に勘案し、一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会が指定管理者として相応しいと判断する。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。

○ 最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。